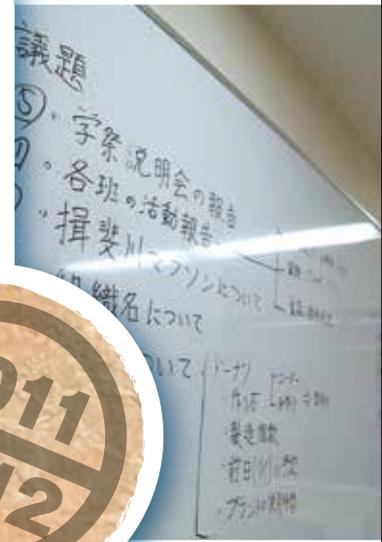


いっしょ懸命プロジェクト

中部大学 キャリア教育科目「自己開拓」
有志メンバーによるプロジェクトチーム



みんなで「一緒に一所懸命」になる。 自然を活かす。 自分を活かすプロジェクト。

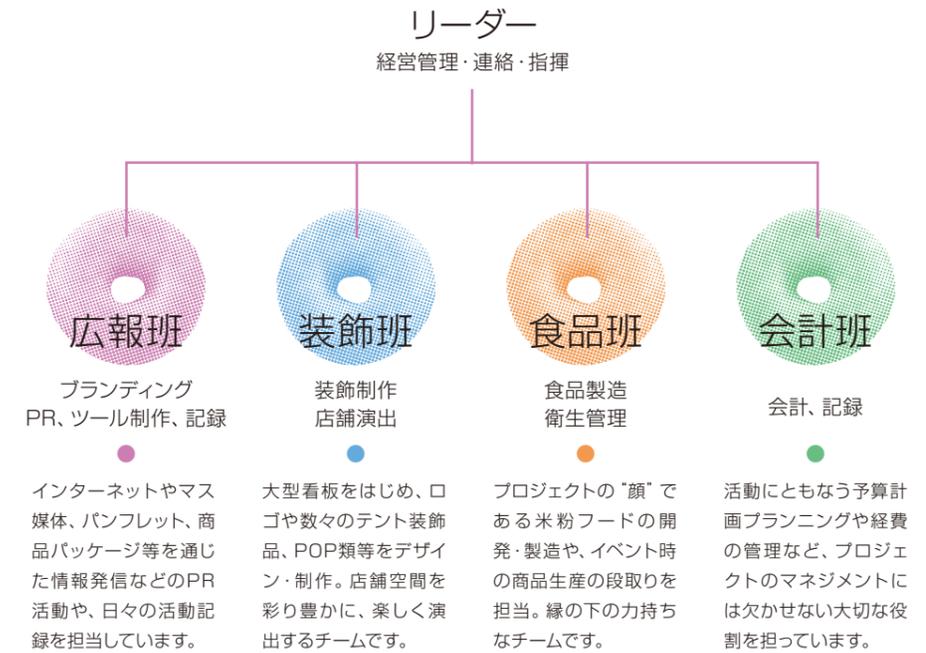


いっしょ懸命プロジェクト

2011
2012

いっしょ懸命プロジェクト 運営・組織体制

大学祭などの模擬販売店舗をベースとした起業化を構想。企業と同じような運営・組織体制を取り、各メンバーがそれぞれのサブリーダーのもと、協力しながらプロジェクト運営を図りました。



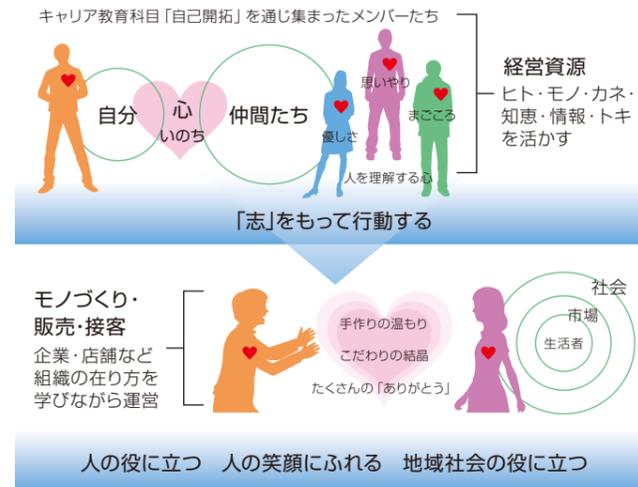
「いっしょ懸命プロジェクト」のコンセプト

私たちの「いっしょ懸命プロジェクト」、それは中部大学のキャリア教育科目「自己開拓」に端を発しています。全学共通科目であるこの科目では、理系・文系問わず様々な分野から多くの学生が講義を受けました。その名の通り「自らを開拓する」をテーマに開講され、まず「いのち」について考えることからスタート。普段の講義とは少し違って、毎回グループワークが行われました。他人とコミュニケーションをとらなければ達成できない内容で、ここにしかない貴重な学びがありました。

- 学んだこと① 様々な体験の中で、自分を成長させていくこと
- 学んだこと② 人は、いろいろな価値観、能力を持っているということ
- 学んだこと③ 一人でできないことも協力すればやり遂げられること

この授業を通して、人が最大限の力を発揮するには、安心できる人間関係が必要であることが分かりました。授業で知り合った人々と信頼関係を築き、「いま」という時を大切に、充実した大学生活を送りたいと思うに至りました。

次にこうした授業を踏まえて、自分たちの可能性をさらに広げていくために、社会に向け行動を起こしていこうと考えました。企業と同じような組織体制を取り入れ、実際にモノづくりし、商品を販売・接客しながら、お客様にお届けしコミュニケーションを図っていく。1次産業＜農水産業＞×2次産業＜食品加工＞×3次産業＜流通・販売＞のすべてを自ら体験しながら、自分と仲間のメンバー、地域、社会との関わりを大いに学びました。



たった一度の人生の中に、大学生生活があり、人との出会いがあり、学びの環境がある…。「いのち」とは生きている時間の連続です、人生で様々な経験をし、その「いのち」をどう生きるかを考える時間や空間があります。私たちは私たちがなりの方法で若者の『可能性(ちから)』に終わりが無いということを多くの方々へ伝えたいと考え、活動してきました。そんな気持ちが新しい一歩を踏み出すためのカギです。この小冊子は私たちが2年間挑んできたチャレンジの集大成であり、私たちの歩んできた物語でもあります。私たちの物語が、これを読んでくださった皆さんに何か温かい音色を響かせることができたら嬉しいです。

Contents

- ①② いっしょ懸命プロジェクト コンセプト 組織
- ③④ プロジェクトの年間タイムテーブル
- ⑤⑥ 商品の企画開発プロセス
- ⑦⑧ 中部大学祭での成果
- ⑨⑩ 学外イベント活動での成果
- ⑪⑫ お世話になった方々からのメッセージ
- ⑬⑭ メンバー紹介とプロジェクト活動の総括

仲間と出会い、協働し、自己を開拓する。 季節とともに、地域とともに広がる、私たちの可能性。

いっしょ懸命プロジェクト

2011
2012

2011年5月から本格スタートした「いっしょ懸命プロジェクト」。チャレンジ2年目となる2012年度は、中部大「チャレンジサイト」に採択され、「米粉ドーナツ作製・販売を通じた地域社会貢献と企業化へのリサーチ」を

学の学生の自主的活動を支援するプロジェクトテーマにさらなる進化を遂げました。

2010年9月
キャリア教育
『自己開拓』スタート!!



理系系問わず
様々な分野の
学生が受講。



自己開拓授業を通じて、
メンバーとの交流がスタート。

2011年11月
初出店! 中部大学祭



店舗デザインも大事だけど
接客がすごく大事と認識



夜中12時まで反省会。明日も頑張るぞ!

2012年11月
ステップアップ!! 中部大学祭



ドーナツとうどんの2店舗出店
メンバー全員フル稼働!

助っ人凄腕営業マン登場!!
絶妙の営業トークで販売数UP!!



丹誠込めて育てたお米
で商品を作る喜び。こんな
経験なかなかないね。

食品プラントでの製造。
プラントは学内でも
特別な場所。

先端クオリティの環境で
ドーナツの種を1つずつ
正確に計量し、衛生的に
丁寧に作りました。

2012年4月
チャレンジサイト参加表明

2011 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2012 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2013 1 2 3 4

2011年5月
田植えと稲刈りの会 発足



降り注ぐ太陽の下、田んぼの手入れは大変!
雑草抜きは稲か雑草かを見分けるのが難しい。

農作業は大変な関係ありません。
とほへ雨は大雨は大変(汗)。

2012年3月
地域活性化イベント『栄ウォーキングフェスタ』出店



看板のベース型は春日井とアメリカ
の形を合わせたもの!



初フライヤー2台体制。この出費が
赤字の原因に...



東海ラジオの単独取材を
受けました!

最初はアイロンプリントだったイベント用Tシャツも年々完成度が上がってる!

2012年5月
チャリティー国際イベント『ウォーカーソン』出店

何度も保健所に足を運びようやく営業許可をGET



慣れた手つきはプロのよう
販売データ記録でアイトが薄く

ドーナツの冷凍保存に
チャレンジしました。

2012年11月
地域活性化イベント
『いびがわマラソン』出店



立体文字看板で目立ってる?

ドーナツ作りは
油の温度管理で決まる!

力作のパンフレットで
お客様と
コミュニケーション!

2011年9月
第一回合宿



課題を見つけ、
目標を
明らかに。



合宿でみんなの心の距離が
近づいた!

夜はバーベキュー!

2011年10月
稲刈り



稲刈りは超ハードワーク!
農作業は本当に大変だ。

刈った稲は
きれいに束ねて
効率UP。
これが大切。
↓
刈った稲は機械に
投入。
乾燥・脱穀まで
一気にできます。

疲れた~!

2012年4月
田植え



女子も気合いが
がんばります。

延々と続く田植え作業。
腰にくる~!

6月には餅米も
植えました。

終わったぞ~!

2012年9月
第二回合宿
in 揖斐郡



会議は常に
「見える化」で。

18時予定の
バーベキューは
21時開始に...

外が暗い...
昼から夜までぶつ通し会議!

2012年10月
稲刈り



真っ暗になるまで
ひたすら稲刈り。

明かりは車の
ライトだけ...

台風襲来前夜の緊急稲刈り!

米づくり×商品づくり=人づくり。 新しい何かが生まれるきっかけは、可能性とチームワーク。



米づくりから生まれ、進化・発展していったオリジナル商品開発。幾多の失敗がありましたが、同じ数の仲間の

笑顔もありました。

Resources

まず資源の見直し

自己開拓授業の一環で行われた「田植えの会」。そこで得た「ノウハウや感動」を活かし、「出会った仲間と形になるものを成し遂げたい」という気持ちで事業プランを発想。



岐阜県揖斐郡の教員所有の農地と中部大学OBの農家さんの指導・協力。



たかはしファーム
高橋 正泰さん
平成16年度
経営情報学部 経営情報学科卒

自らの手での田植え、有機肥料散布、二回の草取り、稲刈り。雨や炎天下の日もあり、泥だらけになりながら地道な作業は想像以上に過酷だったと思います。しかし、作業を終えた後の表情は、毎回充実感に満ちたものに見えました。互いに教え励まし合う姿、無言で丁寧に作業し諦めない姿、成長した稲を見つめ続ける姿、満面の笑みでおにぎりを頬張る姿は印象的でした。多くの気付きも聞くことができ、大きな刺激を受けるとともに自身の農業経営にもヒントを得ることができました。

「たかはしファーム」は高橋さんが岐阜県揖斐郡で経営されている農園。岐阜県特産で「幻の米」と言われる「ハツシモ」、美味しさを追求し、有名フランス料理店でも取り扱われるブランド豚、「美濃いび茶」などの生産・販売を行っています。

飼育委託した豚の肉を使い、新しい商品バリエーションを開拓。

たかはしファームに飼育委託した豚の肉を使用し、商品開発に活用。大学祭やいびがわマラソンでは、豚肉を使ったソーセージと米粉ドーナツをアレンジして米粉アメリカンドッグとして商品化。揖斐の生産拠点を活かした、新しい商品開発に成功しました。



Planning

商品プランニング

当初は米そのもの（おにぎり）で商品化を計画したものの、保健所からの指導で軌道修正。そこで！

米粉に着眼。逆に応用方法が広がり、商品化の視野が拡大。
練る・伸ばす・固める × 揚げる・煮る・・・

一般的な粉もの（小麦粉中心）との差別化や米独自の味わい・モチモチとした食感・栄養を活かした小麦粉を使わない食品の開発を目指す。

米粉というコンセプトを活かしつつ、新食感を得るために「もち粉」も使用。



企画段階の試作では、まるで「おかき」か「かりんとう」。見た目も食感もドーナツとは別物に。ここから試行錯誤の日々が始まりました。

原料生産体制

農業を極力減らし、栽培にもこだわった稲作り（うるち米、餅米）

幻の米「揖斐産・ハツシモ」

ハツシモは岐阜県で生産される全国的にも珍しい幻の米。特に揖斐のきれいな水で育った「揖斐のハツシモ」は味も絶品。食味値は極上米の評価を受けました。これは日本が海外に誇る魚沼産こしひかりと同等の評価です。

自分たちが主体となって、稲作り～米の収穫

私たちは「幻の米」を自然のまま商品に活かすべく、田植えから収穫までの工程を「自分たちの手」で行い、丹誠込めて育てました。



田植え

草刈り・手入れ

収穫

原料の加工

原料を加工する企業とのコラボレーション。

米粉ドーナツや米粉うどんの製造に最適な「粉粒」づくりや、豚肉の加工を行う企業を選定し、協力を依頼。商品化へのアドバイスをもらいながら製造プロセスを進めました。

- 米粉加工・米粉麺加工／有限会社レイク・ルイズ（岐阜県海津市）
- もち粉加工／株式会社丸宮穀粉（滋賀県東近江市）
- ソーセージ加工業者／中濃ミート事業協同組合（岐阜県関市）

Manufacture

製造・商品化へ

原材料の良さに加え、保健所の許認可もクリアした「健康的で良質な食品」だと自負しています。

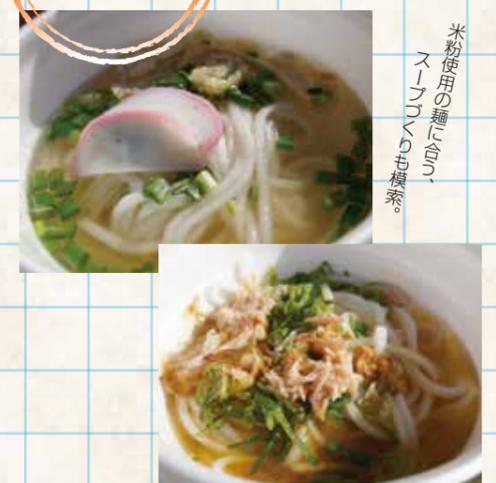
ハツシモ+餅米
米粉ドーナツ

- ★プレーンドーナツ
- ★チョコドーナツ
- ★みそドーナツ（ハチ味噌使用）
- ★アメリカンドッグ（ソーセージに、たかはしファームの豚肉を使用）
- ※ドーナツはあん入り、あん乗せ、チョコ入りタイプもあります
- ★ココアドーナツ
- ★抹茶ドーナツ
- ★カレードーナツ



ハツシモ
米粉うどん

- ★素うどん
- ★地獄うどん
- ★みそ風うどん



米粉使用の麺に合う、スープの味も極楽。



テスト段階でできたドーナツの山

生産個数設定のため事前テストを実施。結果は作業人数5名で1時間で250個生産可能と判明しました。

その後、数日間は毎日ドーナツを食べ続けることに・・・

衛生面・生産効率の問題を同時に解決した、食品プラントの使用。

食品プラントとは、衛生的な環境かつ様々な機器が充実した、中部大学内にある食品製造設備です。大学祭での食品販売に際し、下ごしらえなど一般家庭での調理は禁止という保健所の指導や、生産効率・生産量のアップといった課題解決を図るため、プラントの利用を提案。食品が専門分野の高村先生にプラントがお借りできないか伺いました。本来実習以外での使用は難しいとのことでしたが、学校公認の活動である私たちのプロジェクトは、特別に使用が認められました。

あらためて分かったこと

ドーナツは「生き物」だった!!

作業の機械化を計画し断念。学んだのは、人間の感覚を生かした「職人技」の大切さ。



生産効率を上げるため製造過程の一部機械化目指し、生地を混ぜる「ニーダー」という大型ミキサーのような機械を導入しました。ところが普段使っている材料を同じ比率で混ぜても、手作り時と同じような生地ができません。プラント

内の室温や湿度の変化により、生地の状態が緩くなったり硬くなったりして安定せず、型抜き作業もスムーズに行えないため、生地に混ぜる豆腐の水分量を抜くなど、生地の状態を調節しました。結局、大型ニーダーから手作りの分量に近い小型のニーダーへ変更することに。まさに「生き物」のよう



に変化するドーナツ生地に対して、繊細な「職人的感覚」が必要なことがあらためて分かり、「手作り」の必要性を再認識することができました。

味覚・視覚で魅せる楽しむ総決算。 中部大学祭はプロジェクトの成果発表の場。



私たちのホームグラウンドで、何か新しいことに好奇心をもって挑戦したい！すべてはここから始まった。

2011 2012

11月1日(火)・2日(水)・3日(祝)
【出店商品】米粉ドーナツ(プレーン・ココア・抹茶・あん乗せ・チョコ入り)

自己開拓の授業をきっかけに 大学祭への出店プロジェクトがスタート。

自分たちの手で田植えから稲刈りを行い、手間暇かけて育てたお米を活かしたい。ところが商品化しようと思いついた、おにぎり・そば飯・五平餅のすべてが「炊いたお米に直接手が触れる商品は許可できない」という理由で、大学祭実行委員会に却下されてしまいました。いきなりスタートでつまずいた私たち。一時は利益を優先し、フライドポテトを出そうという案も浮上りました。仲間たちと大いに悩み、話し合い、先生方のご協力も得て知恵を絞った末、お米を「米粉」に加工する新発想が誕生。「米粉」を材料に使ったドーナツショップの出店を決定しました!!まさに「ピンチにチャンスあり」。私たちのこだわりの結晶、「米粉商品」はこうして生まれたのです。



役割分担を考えて班を編成。組織の骨格がまとまった。

より効率的に作業を行うため、小チームを編成しようということになりました。商品開発は食品班、当日のゴミの管理は衛生班、大学祭での集客は売り込み班、販売や物品調達・お店の装飾はテント班という形で役割分担。ここから本格的な活動が始まりました。



はじめての出店で、デコモギ賞を受賞!!

大学祭初出店。たくさん売るだけでなく、お客様を楽しませ、自分たちも楽しむというスタンスで、優秀な店舗デザイン・装飾に贈られる最高名誉賞「デコモギ賞」受賞を目標に掲げ、お店づくりに取り組みました。「一番インパクトのある店舗」を目指し、より印象的な看板作製のために、メインキャラクターの「おじさん」を考案。立体の大型看板の制作を計画し、芸術家の先生にアドバイスをいただきながら、張りぼての要領で「おじさん」の造形を作りました。このほかスタッフTシャツにお店のロゴデザインを入れるなど、楽しく訴求性の高い販売空間を演出。多くの努力の結果、目標の「デコモギ賞」を受賞することができました!!さらに受賞の特典として、次年度の大学祭での出店場所を、優先して選べる権利も獲得。多くの方々からもお褒めの言葉をいただくことができ、達成感も味わいました。



11月2日(金)・3日(祝)・4日(日)
【出店商品】米粉ドーナツ(プレーン・ココア・抹茶・あん入り・チョコ入り)

「米粉ドーナツ」に、新たなハードルが。 でも、私たちは常に飛び越える。

2012年度は保健所の規制がより厳しくなり、大学祭実行委員会からはドーナツは市販品を販売するよう指示がありました。しかし昨年大好評を得た「手作り米粉ドーナツ」への私たちの信念は失せません。保健所、実行委員会に何度も足を運び、先生方にも知恵をお借りして、解決の道をいろいろと模索。食品総合辞典の定義では、ドーナツとは「小麦粉とバターを使ったもの」とあり、小麦を使わない私たちのドーナツは「米粉スイーツ」という見解にいたりしました。実行委員会にあらためて申請した結果、衛生面の対応として大学の食品プラント使用を条件に了承が得られ、今回も「手作り米粉ドーナツ」が販売できることとなりました。



メディアから細かなツールまでを駆使、 集客・PRに貢献。

広報班は、大学祭前のPR資料制作、ブログなどによる情報発信、パンフレットや商品パッケージ制作を行いました。また、新メニューの開発状況、テントの装飾品の製作風景、日々の会議やイベント当日の様子まで様々な活動に密着し、幅広い活動記録を写真で残していきました。こうした仕事のおかげで、全体の大まかな活動状況やメンバーの様子を見ることができ、伝令係としても貢献できたと思っています。

ツール類でPR!

情報発信のために作った「うどんの箸袋」や「ドーナツのパッケージ」をゴミとせず、大事に持ち帰って、ブログなどにアクセスしてくださったお客様が多くいらっしゃったことはとても嬉しいことでした。また各店舗の「パンフレット」をみたお客様が興味を示して私たちに話しかけてくださり、交流を深めることもできました。このような交流を通して、私たちメンバーにも、訪れてくださったお客様にも「楽しい!!」と思える空間を作ることにも貢献できたことは大きな喜びとやりがいにつながりました。



米粉カレードーナツ・米粉アメリカンドッグ・米粉うどん(素うどん・地獄うどん・味噌風うどん)

2年目の大学祭は「ドーナツ」「うどん」と、 初めての2店舗出店・運営にトライしました!!



ドーナツ店 生産～販売レポート

大学祭初日は販売班と製造班との連携がうまく取れておらず、売れるときに生地が届かないという事態を招いてしまいました。2日目には時間帯別の来客数が予想できず、ピーク時にドーナツ不足が発生。修正案を考えたものの、販売班と製造班で意見がぶつかり合うことに…。粘り強く討論を重ねた結果、最終日には人員配置の再整備を行い、生産効率の向上を図ることで問題を克服しました。

売上高	¥114,350
売上原価	¥90,096
売上総利益	¥24,254
販売費及び一般管理費	¥9,950
営業利益	¥14,304

※販売費及び一般管理費には減価償却費と旅費交通費は含まないものとします。

ハプニング続出

店舗の電気コードがショートして溶けてしまったり、電気フライヤー用の発電機も故障するなど、立て続けにアクシデントが発生。急速ガスコンロと鍋による調理方法に切り替えたものの、油の温度調節がうまくいかず、ドーナツの販売提供が困難に。調理が容易なアメリカンドッグのみの販売で、何とか急場をしのぐことにしました。

商品を活かすことを第一にした、店舗演出。 そしてデコモギ賞を2年連続2店舗ダブル受賞!!

ドーナツ店は「栄ウォーキングフェスタ」などに使った看板を再利用。うどん店ではドーナツ店の象徴である「おじさん」に対し、「おばさん」という姉妹店ならぬ夫婦店の設定で、それぞれ個性を打ち出すような看板を制作しました。看板が懲りすぎて何の店が分からなくなる傾向にあるため、「商品(うどん)」が一目でわかるような看板にすることを最優先し、店名である「1・2・3・フォー」を「米」という漢字で表現。大きくうどんのビジュアルを入れ、うどんの店ということが分かりやすく、かつインパクトのある看板に仕上げました。また、昨年に引き続きデコモギ賞を目標に店の細部に至るまで話し合い、ロゴ・看板・ゴミ箱等のデザインを創りました。努力の結果、2年連続そして2店舗同時の受賞を達成。心からうれしく思うとともに、自分たちの行動に自信をもつことができるようになりました。今後さらに努力を重ね成長し、企業にも負けないものを作り出し、私たちの志を後継に引き継いでいきたいと思っています。



うどん店 生産～販売レポート

ドーナツと同じハツシモの米粉を使用した、のど越しの良いもちもち食感の麺と、開発に試行錯誤を重ねたスープによる味のバリエーションがポイント。鶏がら塩味の「素うどん」、岐阜県徳山村の郷土料理「地獄うどん」、夜店で大盛況の「味噌風うどん」。独自性のあるこだわりメニューは、ライバル店にも評価されるほどのクオリティを実現し、達成感を得ることができました。初出店のため不安も大きく、大型鍋などのレンタル、ガスの入手等の課題もありましたが、チーム一丸となり3日間で目標数以上の715杯を販売しました。またお客様へのサービスにもこだわり、提供時間や接客についてお褒めの言葉もいただきました。

売上高	¥203,950
売上原価	¥130,831
売上総利益	¥73,119
販売費及び一般管理費	¥19,899
営業利益	¥53,220

※販売費及び一般管理費には減価償却費と旅費交通費は含まないものとします。



災い転じて...!

牧野先生もゼミ生と一緒にバシヤリ。



2012年12月6日 チャレンジサイト中間報告会にて 後列左より 威知謙豪先生、川北眞紀子先生、松井恒雄先生、高村基治先生、牧野英克先生、ハラデレック裕子先生



応用生物学部 食品栄養科学科
高村 基治先生

このプロジェクトへの協力依頼があつて以降、可能な範囲での皆さんとの交流でありましたが、一連の取組みを通して皆さんが経験した食品の製造そしてそれらを第三者へ提供することを前提としたときの実行内容についての感想を述べます。「食品」をプロジェクトの軸とするならば当然のことながら事業性以前にその製品が不特定の人に食されるという認識を持つ事が不可欠です。従って「食品」に関して少なくともセミプロ級の知見、見識を養って欲しいと言えます。このことはおそらく学生皆さんの反省点にもなっている「手作り」と機械製造のギャップ」「原材料のハンドリングや衛生管理、計量管理の徹底」等に対する不十分さに繋がっています。これらの点が学祭での単なる模擬店での製品提供との差と言えるでしょう。活動を通してのいろいろな経験をメンバーどうして共有化することはそれぞれ各人が成長し、今後の活動改善にも活かされるでしょう。またプロジェクト各分野でそれぞれに頑張った経験は大きな自信となって蓄積されていると信じています。

Special Thanks
活動の要である米粉商品について、食品の専門的な分野からご指導いただきました。大学祭の折には、大学のプラントを私たちが使用できるよう手配し、基本的な食品の衛生管理や専門機材の使用法、食品製造工程の効率化のための計画や段取りの行い方等を細やかにご指導いただきました。また、手作業であった米粉ドーナツ生産過程の機械化についてもご助言いただき、新たな視点から商品を見つめ直す機会も与えていただきました。

経営情報学部 経営学科
牧野 英克先生

「自己開拓」受講者による米粉ドーナツやうどんの作製・販売に向けての田植えから学園祭等出店に至る活動は、画期的なチャレンジであったと思う。何歳になっても、チャレンジはできる。しかし、若い時にしかできない挑戦もある。試行錯誤をへて、また多くのハードルをクリアしながら学生諸君は一人の人間として確実に成長したと思う。ヨコ社会とタテ社会が織りなす人間模様の中で学生諸君は何を感じたであろうか？弱者の味方だと思い込んでいた法律が実は強い者の味方であったり、我々の生活を守るはずの規制が新しいことへの挑戦の妨げになっていたり、学生諸君は教室の中の授業だけでは見えてこない様々なことを学んだであろう。君達の作製した米粉ドーナツやうどんが他に類を見ない食感を醸し出したことに自信と誇りを持ってほしい。今回の経験は君達が味わい深い人間としてさらに成長していく上で、大きな糧となるものと確信している。頑張ったね。

Special Thanks
企業法務の専門家でいらっしゃる。大学側が設けた新しいルールにより前年度同様のドーナツ店の出店が困難になったとき、保健所に同行していただきました。先生からは、情報収集の仕方、規制・ルール等との向き合い方を教えてもらいました。また、学外での出店の際にはリスクの未然防止等につき、ご助言いただきました。チャレンジサイトでは、企業化へのリサーチが目標だったので、学生運営の理想的な会社づくりについてアドバイスをいただきました。先生は、会うたびに「がんばってるのか」と声をかけてくださり、勇気づけられ、また嬉しく思いました。

中部大学の各分野の先生方に、学部学科を横断してご指導・ご協力いただきました。

プロジェクトの推進力となる、専門的見地からのご助言。これからも大切にしていきます。

経営情報学部 経営会計学科
威知 謙豪先生

現金の出納管理からイベント毎の会計報告、1年間の事業全体の会計報告を無事に終えていることから、会計を担当した学生の皆さんは十分に責任を果たしたものと思います。この過程で、目的適合性や信頼性といった会計情報が有すべき基本的特性をベースとして、「1年間の経営成績と財政状態をどのような形式で報告するのが当プロジェクトの実態を表すのか」、「補助金の提供元である中部大学への説明責任を果たすことができるのか」という点を検討して会計報告の資料を作成したことは、皆さんにとって貴重な経験となったと思います。また、この活動を通じて、プロジェクトの現状を金銭面で把握・評価をしたり、今後の計画を検討する際には、会計の基本的な理解が不可欠であることを理解できたと思います。今回は会計を担当しなかった学生の皆さんも、社会に出る「少し前まで」に基本的な会計知識を是非とも身に付けてください。

Special Thanks
主に会計部門のことで相談に乗っていただきました。活動の資金や予算立ての仕方、基本的なまとめ方や考え方、さらに誰が見てもわかるような資料の作り方で教えていただきました。金銭的な計画がなく、会計処理を粗末にしては、安心して活動することはできません。威知先生のご指導、ご指摘のおかげで、会計の部門がいかに大切かを知ることができました。

経営情報学部 経営学科
川北 眞紀子先生

作業中に通りかかると「楽しそうやね〜」と声をかけると「楽しいですっ」と答えてくれましたよ。本当にみんな楽しそうで私まで楽しくなりました。広報の仕方が知りたいと言うので、リリースの書き方を教えたら、すかさず実行して新聞記事に取り上げられました。社会人でも専門家でない難しい仕事です。また、案内パンフレットの作り方を教えてくれるので、ちょっとしたヒントを出したら、かなり作り込んだものを仕上げましたね。みんな決して器用な学生たちではなかったし、作業のスピードも遅いけど、粘り勝ち。日々顔つきが変わっていくのがわかりました。農業から加工、販売まで長いサプライチェーンをここまでこたわるなんて、学生が扱える範囲を超えている。多くのメンバーを抱えるチームだからいろいろ摩擦もあったと思うけど、いくつもの難関に対してめげずに取り組んでいました。これを支えた多くの大人達の努力にも脱帽そして感謝ですね。

Special Thanks
ご専門はマーケティングです。商品・活動のPR方法やプレスリリースの仕方、パンフレット制作など、ご指導いただきました。パンフレット制作時には、読者の目の動きを想像しながら考えることや、見た人が「食べてみたい!」と興味をもってもらえるようなPRにするためのアドバイスをしてくださいました。広報活動のノウハウの一端を学ぶことができ、また、広報資料についても完成度をより高めることができました。

全学共通教育部 統括調整部門
松井 恒雄先生

このプロジェクトは、キャリア教育科目「自己開拓」の土曜日受講生を中心としたメンバーで構成されています。授業で修得した「自己を知る、他人とのかわりを試みる、社会とのかわり合いを知る、生きること・働くことを考える」ことを授業外(学内外の地域社会)で実践し新しい自分の可能性を見出すというチャレンジしてもらえたと思います。学生さんの授業外・主体的学習の一環と私は捉え、学生さんの自主的活動に多くを任せため、動きがゆっくりで心配な面もありましたが、チーム内の相談・議論、対外的折衝、学内の諸手続き、各種書類作成などなど、の種々の失敗・困難に自分達で立ち向かい一つずつ解決していくうちにメンバーは着実に進化し驚く程自立してきています。今後も自分の殻を破って成長してください。着実な指導をされたハラデレック先生を始め、個々の困難な問題に相談に乗って指導いただいた多くの先生方に感謝します。

Special Thanks
チャレンジサイトのプロジェクトが発足する前段階の応募書類作成のご指導いただきました。申請が通ったという報告を受けた時はとても嬉しかったです。チャレンジサイトというチャンスの中で困難な時は一緒にいろいろな方策を考え、私たちが成長できる環境を作ってくださいました。松井先生のご協力があったからこそチャレンジサイトに参加することができ、現在も安全に楽しく活動することができています。

全学共通教育部 キャリア教育担当
ハラデレック 裕子先生

「いっしょ懸命プロジェクト」活動の中心メンバーである3年生が1年生だった2010年、キャリア教育科目「自己開拓」がスタートしました。日本ではキャリア教育の歴史が浅く、試行錯誤している状況です。キャリア教育に関わることとなった私は、これまで受けてきた教育や社会経験を振り返り、人が生きていく上で礎となるものは何かと自問自答を重ね、中部大学で「一粒の種」をまくこととなりました。授業の中で私が最も大事にしたいと思ったことは、一人ひとりの命の尊さです。神様から与えていただいた命をどのように生きるかは、自由です。もし不自由に感じているとすれば、自分の心がそれを縛っているからではないでしょうか。法律や社会規範に従いながら自己責任のもと、他者への思いやりや愛情を持ち続けられ、どのように生きるかは自由なはずで、私は、学生ができるだけ多くの束縛から解放され、真っ白なキャンパスに自由に絵を描く情熱を持ってほしいと願って日々の教育に当たってきました。授業の最終回は、学生が将来の夢を描き、行動計画を立てるという内容でした。その際、半年に一度程度、クラスメイトに会って進捗状況を確認し、互いに励まし合えるような集いとして田植えと稲刈りの会を提案しました。今の時代は、収入を得て、衣食住の環境を整えることが生きることのベースになってい

Special Thanks
キャリア教育科目自己開拓で初めてお会いし、活動のきっかけとなる「田植えと稲刈りの会」を立ち上げていただきました。活動を進めていく中で私たちが間違った方向へ進もうとすると本気で叱ってくださり、悩んだとき、困ったときには親身になって相談に乗っていただきました。楽しい時もつらい時もずっと一緒に時間を過ごし、先生の姿をずっと見てきました。先生を見て学ぶことは今までだけでもたくさんありました。先生から人として必要なことや礼儀、マナー、思いやりなどを学んだからこそ今の私たちがいるのではないかと思います。

ます。食料を自らの手で作るということは、力強く生きていく上で大きな力になるのではないかと考えたからです。実際に田植えと稲刈りの作業に従事したことはとても清々しい貴重な体験となりました。田植えと稲刈りに参加した仲間が自発的に様々な情報を持ち寄り、会合を重ねました。そこで学生一人ひとりのユニークな個性を尊重するうちに自然に生まれたのが「いっしょ懸命プロジェクト」の構想です。初めは私の経験や責任の枠の中に収まっていたものが、私の想定をはるかに超えるプロジェクトに発展してきたときには、嬉しさとともに不安も感じました。若い人たちの情熱を支えるには大きな受け皿が必要だということに改めて気付かされた経験でした。また、若者の情熱や好奇心こそが社会への希望であるということを実感しました。私自身、人生の折り返し地点近くに立っています。次を担う若者から無限の可能性を引き出し、それを社会に生かせるよう一人の人間として精進していきたいという思いを強くしています。「自己開拓」の授業でまいた「一粒の種」は、多くの方々の支援を得て、「いっしょ懸命プロジェクト」を通じて学生一人ひとりの命の中で「芽」を出してくれました。支援していただいた皆様方に深く感謝いたします。そして皆様方と一緒にこの芽がこれからどんな花を咲かせるのか楽しみに待ちたいと思います。

Appreciation
★後藤俊夫副学長
個人的に多額の寄付をしてくださいました。その後チャレンジサイトのご案内をいただきました。感謝しています。
★プラントでお世話になった矢田さん、皆見さん、研究生のみなさま
学園祭でお世話になりました。時間を割いてプラントで指導もしていただきました。
★経営情報学部の高橋道部学部長はじめたくさんの先生方
イベント準備をしているときに、施設を貸していただいたり、声をかけていただいたり、差し入れをくださったりとすごく親切にしてくださいました。
★応用生物学部 食品栄養科学科 根岸晴男先生
ウォーカーズ出店の際に冷凍保存の仕方や衛生面等のアドバイス等いただきました。
★高橋家の皆さん
田んぼの手入れや、ご自宅で会議などたくさんの心遣いをしていただきました。
★竹内孝勝さん(裕子先生のご友人で芸術家)
店舗装飾のアドバイスをいただきました。竹内さんなしでは看板をテントに載せることはできませんでした。
★有限会社プラネット
小冊子全体の構成と文書作成、デザイン等をお願いしました。私たちの想いが1冊にまとまり感無量です。
★クリスタルクリエイティブ株式会社
全プロジェクトと一緒にやってきました。代表者である裕子先生をはじめ、自己開拓を共に担当された林芳孝先生、岡宮基文先生、いろんな繋がりを作ってくださいました。そして奥村清司さん、常に私たちのことをみてくれた冗言のような存在。困っていたら手を貸してくださいました。一緒に花見やレクリエーションもしました。大学祭では清司さんがいなければ営業できいかなかったかもしれません。礼儀、マナー、仲間への思いなど人としての基本や、大切なことも教わりました。

多くの方に支えられ、大切なものをこの活動で学ぶことができました。常に感謝の気持ちを忘れずにこれからも生きていく時間を大切に成長していきたいと思えます。
ありがとうございました!
いっしょ懸命プロジェクトメンバー一同

voide

聞いてください。プロジェクトを通じて成長の証を感じ取った、私たちの声。

経営情報学部 経営学科
辻村 明宏
★装飾班リーダー

新たな自分を発見!



この活動で装飾班のリーダーをするにあたり、今まで自分がやりたかったモノのデザインや作成を、本格的に取り組むことができました。それにより自分が本当にやりたいことも見つかり、今後の自分の人生のプランというものも、何となくではありますが考えられるようにもなりました。それもこの活動に携わったことで、普通では味わえない「喜び」であったり「苦しみ」の中で、自分から見た、自分の好きなところや嫌いなところと、見つめあえたからだだと思います。

工学部 建築学科
上條 貴寛
★装飾班

思っているだけでは意味がない。



私は仕事や学びの場、人とのコミュニケーションの場面で「あすればよかった、こう言えばよかった」と、行動や発言をしないで後悔することが多々あります。しかし、装飾班でデザインや方向性を話し自分で制作を進めていくうちに、意見を言わないことの無意味さを知りました。未だに後悔することがなくなつてはいませんが、ただ少なくとも私にとってこの活動は、自分の考えが変わる程、本気で人と関わった、とても掛け替えのない経験でした。

工学部 応用化学科
井野 龍一郎
★装飾班

正直であること。



大学祭で店舗責任者をし、反省会で否定的な考えを発言しました。そこから、自分が仲間に対して正直な発言することに疑問を感じ、活動への参加をしなくなっていました。その結果、仲間にも迷惑をかけ、活動を辞めようと思いましたが、しかしその後、仲間に対する考え方が変化してきたことを聞いて、この文章を書くことを決めました。2012年から1年間、本気であることの苦しさを知りました。次は糧にできるかが、自分の目標となっています。

工学部 機械工学科
藤澤 勇太
★食品班

意思表示は大切!!



話がかみ合っていないことを、しっかりと自分の意思を伝えなかったため、自分のせいとされてしまい、濡れ衣をかけられてしまうという事件がありました。この時から、自分の思ったことをはっきり伝えないといけないと思うようになり、普段からの心の持ち方が変わり、意思表示をしっかりとしようと思えました。ほかにも、いろいろなところで事件などがありましたが、皆でそれを乗り越え、楽しく活動することができました。

経営情報学部 経営学科
横山 侑典
★プロジェクトリーダー★広報班リーダー

今の原動力の一つ。



米のイベントリーダーを経験しました。結果は赤字で、原因の一つは私の「これでいいや」という準備の仕方でした。反省会で、新リーダーならついていくと聞いたときすごく悔しく恥ずかしくもありました。仲間が離れていく怖さを知り、仲間の大切さ、やりぬく大切さを知りました。一つ一つの行動が色々な事柄につながって本番だけ頑張っても意味はなく、その過程でどれだけ気持ちを入れ頑張ることができるかで、物事の結果は変わること学びました。今では、このときの失敗が糧になり自分を動かしていると思います。

経営情報学部 経営学科
織田 雅
★広報班

真剣に向き合えば、誰もが、素の自分をしてくれる。



広報班所属として、活動をさせていただきましたが、食品班の仕事にも参加させていただくこともあり、様々な経験をする事ができました。サークルや部活でもないのに、広範囲の学部や学生との触れ合いができたのは、このプロジェクトがあったおかげだと思えます。人が違えば考えも違い、些細なことで衝突することも多かったのですが、その衝突が、より深い仲になるきっかけでもありました。この活動での2年間は、10倍にも感じる、内容の濃い活動でした。

応用生物学部 応用生物化学科
水口 恵梨菜
★広報班

「話さず苦手」は損をする。



どんな人でも誰かに苦手意識をもつことはあると思います。私も活動内で苦手意識を向ける人が数名いました。しかし、広報班の仕事であるパンフレットを完成させる上で、仲間の活動する場面を目にし、その声に耳を傾ける機会も多くなり、その人を知ることができました。今では一緒にご飯にも行きます。この経験で私は互いを理解する大切さを学びました。あの時仲間と話す機会をもてたことは、私の中で代え難いものとなっています。

人文学部 心理学科
品田 未希
★食品班

今も答えは分からないけど、いつか分かる日が来ると信じて。



私はイベントが終わるたびに「もう充分だろう」と思って、この活動から離れようとしていました。イベントをやめぬくという自分で決めたことは果たせし、何よりこの活動に参加している意義が見い出せないままに嫌でした。しかし、みんなが私を必要としてくれるから、今日までこの活動に携わってきました。私にとってこの活動の意義はまだ分からないですが、「人生に無駄なことはない」と信じてやるだけやってみようと思います。

応用生物学部 環境生物科学科
清水雅允
★食品班

食品班視点の営業。



私が一番印象に残っているのは「栄ウォーキングフェスタ」です。私はこのイベントから食品班に関わることが多くなり、メンバーの仲間がどんな気持ちや考えで、どのように試作会が行われているのか実感することができました。試作会だけでなく、当日の夜まで試作を続けるくらい追われていたのですが、今思えば貴重で楽しい時間を過ごせました。この時間があってこそ、私はお店の前で自信をもって、お客さんにドーナツを販売できたのだと思います。

経営情報学部 経営学科
鬼頭 咲妃
★プロジェクトリーダー★会計班リーダー

かけがえない時間、仲間、経験、環境、すべてに感謝の気持ちでいっぱいです。



私がこの活動をやり続けているのは「今しかできないこと」だと思っているからです。自分にもこれほど打ち込めるものがあつたのだと思うと本当に嬉しくて、最初は未知の世界でしたが、やっていくうちに仲間やチームに団結力が生まれ、やりがいのあるものとなっていきました。2011年度大学祭を責任者として経験し、辛いことも味わいました。でもそれ以上に、自分がこの活動をしている時間が、何より充実していました。もちろん大変な時もありましたが、仲間がいたから、支えあって乗り越えられたと思っています。かけがえない時間、仲間、経験、環境、すべてに感謝の気持ちでいっぱいです。

応用生物学部 環境生物科学科
榎原 郁也
★食品班リーダー

学業より大変だった?!



初めは商品を作るだけだと思っていましたが、開発には時間がかかり問題が山ほど発生するし、メンバーの予定調整や試作内容決め、材料の仕入れ、保健所との交渉など仕事も山積みでした。徹夜作業で寝不足の日々を送ることも多々ありました。しかし今思えば、どれもとても良い思い出です。大変な思いをしましたが、貴重な体験と良い仲間に出会うことができ、充実した学生生活を送ることができました。

応用生物学部 環境生物科学科
小嶋 康亮
★食品班

本気でぶつかり合える仲間がいる!



私はこの活動を通して、仲間と一緒に一つのことを作り上げる喜びを学びました。私は今まで、ここまで一つのことに対して、一生懸命になったことがありませんでした。活動の中で、時には仲間と本気でぶつかり合ったり喧嘩をしましたが、最後には仲間と協力して目標を達成することができました。このチャレンジサイトでの経験を社会人になっても持ち続け、仲間と一緒に、一つのことを作り上げる喜びを大切にしていきたいと思っています。

人文学部 日本語日本文化学科
丹羽 悠美加
★食品班

大切なのは計画。



私は、イベントなどの前に人員・器具の配置、一定時間の生産量など一つ一つ計画を立てていくという経験を経験しました。計画を立てるということは、あらゆる配慮が必要になるため、慣れないうちは時間がかかりました。そしてこの計画で本当にうまくいくのか不安にもなりました。しかし必死で立てたその計画は一定の基準となり、作業効率を上げてくれたような気がします。何ごとをするにしても、計画を立てることが、成功へと繋がっていくのだと強く感じました。

応用生物学部 環境生物科学科
高柳 咲希
★食品班

何ごとでも鶏呑みにせず、自分で考える重要性を知った。



私は活動を通して、一つ重要なことを学びました。「何でも人の言うことを鶏呑みにしてはいけない」ということです。これは参加当初から裕子先生に言われてきた言葉です。何でも経験している先輩の言うことに従ってればそれで良いのではなく、なぜそういう考えになるのか疑問をもって話を聞くことで、新しいアイデアが生まれ、自分の意見をもてるようになっていきます。自分の考えを主張することが得意でない私も、このことで発言できるようになりました。

いっしょ懸命プロジェクト

2011
2012

経営情報学部 経営会計学科
伊東孝敏
★会計班

実感した、販売する難しさ喜び。



私はこのチャレンジサイトには2012年10月頃から参加し、2012年度の大学祭と、いびがわマラソンでの出店に売り込みで関わりました。その短い時間の中でも、自分のもっている商品をアピールして販売することの難しさ、売れたときの喜びを実感しました。また、ほかのメンバーとのコミュニケーション(情報共有)の難しさなど、人と協力して何かをすることの難しさ、達成したときの喜びを大きく実感できました。

大学祭やイベントで協力・参加してくれたメンバー
稲垣泰治 入米蔵康平 胡田真希 川合諒 駒田勲平 佐伯静香 杉山裕磨 鈴木大介 竹内菜穂 立松千佳 中川秀麻呂 西村洋輝 長谷徳人 春山拓弥 淵田寛人 真野靖也 宮本和徳 望月陽佑 森田恵里香 山田まり子 山根泰之 (50音順)

総括

2011年の大学祭出店時、米粉ドーナツ店は反響を呼び、栄W AOking Festaへの出店につながりました。そこでも同じような成功が待っていると過信していました。しかし悪条件が重なり、その結果約8万円の大きな赤字を出しました。仲間との衝突、数えきれないほどの後悔や反省がありました。不眠不休の努力にも関わらず、アルバイト代がもらえるどころか借金ができました。リーダーの舵取りが悪かったのか、それに疑問もなくついていった者が悪かったのか・・・「リーダーだけの責任ではない!」、みんなで解決の道を考えました。ひとつは、入場者数が多いイベントに出店して返済の目途を立てることでした。それがウォーカソンに出店した動機です。そして、これからの活動の基盤にすべく中部大学で学生の自主的な活動を応援してくれるチャレンジサイトに応募し、補助金を得ることにしました。チャレンジサイトでは、各分野の先生に協力をお願いし、活動に必要な知識を学んでいくこともできました。1年間の活動の中で様々な人が集まり、持てる力を存分に発揮できたことは、これからの生き方を考えたりするうえで貴重な経験となりました。2012年12月、協力して下さっている先生方に集まっていただき中間報告会を開きました。そこでは私たちの活動の報告をしました。先生方に対して、ようやく私たちの活動の全体像を知っていただくことができました。次に何かを始めるときは、早期の段階から先生方と一緒に計画を立てることができたら、今より一層レベルの高い運営、経営をしていくことができると思いました。

来年度、夢としては学外店舗を借りて週末カフェの出店です。それは、イベントへの参加レベルを超えて、初めて現実の競争市場に進出することです。厳しい競争社会の中でしっかりとリスクマネジメントしなければなりません。夢は大きく持ちたいと思います。想定外のことばかり起こった一年間は失敗の連続でしたが、私たちにとってかけがえのない経験になりました。一つひとつが自分の力になっていると確信しています。この力が生きていくための原動力になればと思います。

■損益計算書(会計報告書)

売上高	¥454,690
売上原価(※1)	¥248,326
売上総利益	¥206,364
販売費及び一般管理費(※2)	¥175,634
営業利益	¥30,730
営業外収益(※3)	¥600,000
営業外費用見込額(※4)	¥380,000
経常利益(当期純利益)	¥250,730

2012年5月のウォーカソンイベントより2013年2月22日現在までの損益計算書です。
※1 売上原価とは、商品の材料費、加工費等を表しています。
※2 販売費及び一般管理費とは、広告宣伝費、旅費交通費等を表しています。
※3 営業外収益とは、今回の大学からの補助金を表しています。
※4 営業外費用とは、今回の小冊子の印刷費用等を表しています。まだ完全に計上されていないので、見込額となっています。



中部大学

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
TEL 0568-51-1111 (代表)

企画提案：クリスタルクリエイト株式会社

